

平成29年度第1回小鹿野町総合教育会議会議録

開催日時 平成29年6月20日(火) 午後1時30分
開催場所 両神ふるさと総合会館 研修室A
開会時刻 午後1時28分
閉会時刻 午後3時21分

出欠席状況

町長	福島弘文	出席
教育長	中紀雄	出席
教育委員	齊藤榮一	出席
	高橋美正	出席
	朝比奈玲子	出席
	小池恭一	出席

その他会議に出席した者

社会教育課長	黒沢義則
学校教育課長	磯田定志
学校教育課主幹	黒田佳之
総務課長	高橋俊行
総務課主幹	黒沢彰

傍聴者 なし

会議録署名 中紀雄

日程

- 日程第1 会議録署名委員の指名
日程第2 議事
(1) 平成29年度教育行政重点施策について
(2) 今後の児童生徒数から見た学級編成について
(3) 旧両神中学校施設活用計画案について
(4) 認定子ども園視察結果について
(5) その他

閉会

会議の進行状況及び顛末

開会 午後1時28分

町長 あいさつ後、全員の出席を確認し、平成29年度第1回小鹿野町総合教育会議の開会を宣言する。

それでは司会の方から指名ですので、しばしの間議長を務めさせて

いただきます。

早速ですが、小鹿野町総合教育会議を始めさせていただきます。

以下次第にごぞいます、日程に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

町 長 まず、日程第1 会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員の指名については、中 紀雄教育長を指名いたします。よろしくお願ひ申し上げます。

「はいの声あり」

町 長 次に日程第2 議事に入らせていただきます。

初めに(1) 平成29年度教育行政重点施策についてを議題とします。教育委員会より説明をお願ひいたします。

磯田課長 それでは、平成29年度小鹿野町教育行政重点施策につきましてご説明させていただきたいと思ひます。お配りしております、資料をご覧いただきたいと思ひます。座らせていただいて、説明させていただきます。

1 ページ目中ほどをご覧いただきたいと思ひます。小鹿野町の教育を、家庭・地域、学校、行政の密接な連携のもとに「教育スクラム日本一」を志向する取組を高め、子供たちの学力向上を図り、確かな「人間力」の育成に努め、地域に根ざし、地域を拓き、地域から未来を担う人材の育成に取り組んでいくことを目的に、この重点施策を策定しているものであります。基本理念につきましては、未来を拓く夢と希望と勇気を育む小鹿野教育、基本目標を「ふるさとの明日を担う心豊かな人づくり」の推進ということにしております。本年度の重点施策につきましては、5項目ごぞいます。1番目に確かな学力の育成、2番目が自立し周囲と協調できる社会性の育成、3番目にグローバルな視点を持ち、夢の実現に向かう活力の育成、4番目に豊かな人間性と健やかな体の育成、5番目に伝統文化の継承と生涯にわたる学びの支援ということになっております。資料を1ページめくっていただきたいと思ひます。さらに今申し上げました、5項目の細かな推進事業が羅列してありますので、いくつか抜粋してご説明をさせていただきたいと思ひます。

まず、確かな学力の育成につきましては、1番で小・中学校9年間を一貫した教育の推進、アとして、将来の小鹿野教育の基盤として、小・中学校9年間を一貫した教育指導の推進というものがごぞいます。今年度は小・中学校一貫生活目標というものを定めまして、小中学校共にきれいな学校、元気なあいさつ、やさしい言葉というのをキャッチフレーズに学校運営、教育に取り組んでいるところでごぞいます。

2番目に学力向上に向けた授業改善、アとして、全教員が授業の視点を共有する「学びづくり」に向けた授業改善、小鹿野ベースというものがごぞいます。こちらにつきましては、小中学校で統一した授業体系、教育の枠組みづくりに取り組んでおります。

3番目に教職員の資質向上、ウとして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教職員のICT活用技能向上研修の充実というのが

ございます。こちらにつきましては、今年度全教職員、それから両神小学校を研究指定校といたしまして、タブレットの導入を計画しております。購入につきましては、これからになります。購入後は教職員を対象にした研修、それから両神小学校を研究指定校として、児童も含めて、その活用方法の研修に取り組んでいくことになっております。

4番目に学習機会の拡充と直接的な支援、アとして、小鹿野未来塾事業の推進というのがございます。昨年度から始めさせていただいた事業として、皆さんご存知かと思われそうですが、今年度は中学生未来塾が72人、英検が65人、漢検チャレンジ講座が100人、科学不思議講座が29人ということで申し込みをいただきまして、事業を開始しているところでございます。

それから、5番目に少子化に対応した教育課程の研究ということで、イとして、複式学級対応を見越した教育計画・指導方法の研究というのがございます。こちらは、後程またご説明をさせていただきますが、平成30年に三田川小学校で複式学級が予想されております。現在専任の学習支援推進員を配置いたしまして、三田川小の教職員と研究検討を開始させていただいております。

次に、自立し周囲と協調できる社会性の育成ということで、1番目に自治・自立に向けた態度の育成、ウといたしまして、地域の発展・活性化を意識した啓発活動の工夫、まちづくり教育というのがございます。こちらにつきましては、鹿中で将来町の担い手となるような取り組みを開始していただくということで、今年度は鹿中生315人のあいさつや、明るいまちづくりをキャッチフレーズに、事業に取り組みを始めていただいております。

2番目に、社会体験・ボランティア体験の充実、アといたしまして、社会体験チャレンジ事業や地域と連携したボランティア体験活動の推進というのがございます。こちらは、中学2年生の職場体験や、社会福祉協議会による小中学生ボランティア体験への参加、というふうなことで進めさせていただいております。

3番目に家庭・地域の教育力の活用、アといたしまして、小鹿野未来塾における支援体制、授業や行事等の教育活動における支援の充実というのがございます。こちらにつきましては、退職教員ですとか、地域の有識者、それから小鹿野高校の教職員の方々のご協力をいただきまして事業を進めているところでございます。

次のページで、3番目でグローバルな視点を持ち夢の実現に向かう活力の育成ということで、1番として、夢と志をもち、自立する力の育成、アといたしまして、系統的・組織的なキャリア教育の推進、継続的な志ノートの活用というのがございます。こちらにつきましては、中学1年生から3年生を対象に、自らの将来設計に向けた現在の取り組みをノートに記入していただいております。これらを参考に、長若小学校、小鹿野小学校でも取り組みを開始したというふうに聞いております。

2番目といたしまして、家庭協力の向上、アとして、小鹿野町PTA連合会と連携したおがの家庭教育宣言の推進、こちらにつきましては、おがの家庭教育宣言は5つの約束というのをふなことになっておりまして、1つが親子で生活のリズムを作る、2つ目が毎日時間を決

めて家庭学習に取り組む、3つ目が家族で積極的に会話をする、4つ目が家庭での役割を持たせる、5つ目が人を大切にし、人のためにという気持ちを育てるというふなことでPTAと連携して推進させていただいております。

3番目に語学力・コミュニケーション能力の育成、アといたしまして、英検・漢検チャレンジを通した学習意欲・言語能力の向上、中学校卒業時英検3級4割合格というふうな目標を掲げて、取り組みをさせていただいております。昨年度の実績ですと、3級の取得者は2割というふなことになっておりますので、少なくとも昨年度の実績以上の実績が残せたらというふうなことで取り組んでいただいております。

それから、4番目に豊かな人間性と健やかな体の育成、1番といたしまして、道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実というのがございます。アとして、道徳的実践力を培う道徳教育、人権教育の充実、心の教育の推進というのがございますが、現在道徳教科書の採択の検討中でありまして、教科書が決まり次第、年間計画や指導方法の周知徹底を図って、道徳教育に努めていくというふうな予定になっております。これは、今年度から道徳が強化されている影響かと思われます。

2番目に幼児教育の充実と円滑な接続、ウといたしまして、幼・保・小連絡会の充実と相互理解の深化、連携シートの統一・活用というのがございます。こちらは、小・中一貫教育を踏まえて、幼・保・小も円滑に接続できるように、共通の目標や指導の重点等について会議等行っているものでございます。

それから3つ目にいじめ・不登校の防止、アといたしまして、生徒指導推進モデル校の機能を生かした細かな対応によるいじめ撲滅というのがございます。こちらは、今年度小鹿野中学校がモデル校となりまして、小学校や警察などの関係機関、それから地域関係者からなる、いじめ非行防止ネットワークを、来月から発足させて運営を開始するというふうな計画になっております。

それから、4つ目に健康教育の推進、アといたしまして、給食センター機能の活用による望ましい生活習慣と食育に向けた家庭への意識啓発というのがございます。こちらは、学校給食の運営や食育の推進の参考とするために、この夏休みを活用して学校給食に関するアンケートを実施する計画になっております。それから、もう一つ、ウといたしまして、学校配膳室改修による給食配膳の効率化というのがございます。今年度小鹿野小学校、長若小学校、給食調理場を改修いたしまして、配膳がし易くなるように夏休み中に工事をするようになっております。

それから、次のページをご覧くださいと思います。5といたしまして、伝統文化の継承と生涯にわたる学びの支援ということで、ライフステージに合わせた学習機会の提供と支援、社会教育課のイといたしまして、学校、家庭、地域による家庭教育支援、親子ふれあい体操、家庭教育講演会というのがございます。家庭教育講演会につきましては、5月21日に実施いたしました。PTAの方々約60名の参加をいただきまして大変有意義な講演会を実施することができました。それから、親子ふれあい体操につきましては、昨年度佐藤ひろみち体操のお兄さんと呼んで実施したということで、今年度10月頃に佐藤ひろみち体操のお兄さんと呼んで実施するというふうな計画と

伺っております。

それから、2番目に生涯学習推進体制の整備と促進、社会教育課・公民館アといたしまして、生涯学習活動の支援と学習成果の活用、小鹿野ときめき生活推進大学というのがございます。今年度は、講師の先生に町内企業経営者をお招きいたしまして、地域振興等に関する講座を実施させていただいております。この前の土曜日には田中技研の相談役の方においでいただきまして、企業経営に基づく地域振興等の色々なお話を伺うことができました。

それから、3つ目に健康づくりとスポーツの推進というのがございます。社会教育課のイといたしまして、生涯スポーツ活動の充実に向けた環境整備、ボルダリング壁の設置・活用というのがございます。こちらは、旧両神中学校の体育館を活用いたしまして、今年度ボルダリング施設を整備する計画となっております。学校教育や社会体育事業等で広く活用していく計画となっております。

それから、4つ目に文化芸術の振興と伝統文化の継承、社会教育課のイといたしまして、文化財の保存と活用の推進、古秩父湾保存活用計画の策定というのがございます。こちらにつきましては、町の自然、歴史、文化などに触れることのできる文化財を展示、収納できる施設を整備するというようなことで、この後、また詳しく社会教育課長の方から説明をしていただきたいと思いますと思っております。

それから、5つ目に図書館機能の充実と読書活動の推進、イといたしまして、図書館、学校図書館の連携強化、学校図書館サポートセンターとしての機能化、図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクールの開催というのがございます。こちらにつきましては、平成28年度に町立図書館と、中学校図書館のシステムを統合いたしましてネットワークを構築させていただきました。現在町立図書館が中心になって、学校図書館を多方面から支援できることになっております。また、学校の方もインターネットで検索できて、学校の図書も相互で利用ができるようになっております。

以上、雑ぱくではありますが平成29年度の小鹿野町教育行政重点施策につきまして、いくつか中心となる事業について、説明をさせていただきました、よろしく願いいたします。

町長

はい、ご苦労さまでした。それでは、教育長の方から何か補足説明等がございましたらお願いしたいと思います。

教育長

はい今、学校教育課長の方で主なものは発表させていただきました。今後という意味で平成29年度の施策を中心にしながら、今後は少子化の大きな流れを受けるこれからの教育をどう進めていくかというのが大きな課題になってくるかなと思っております。それから、もう一点は、やはり私ども教育委員会で預かる教育施設というものが閉校されたということで、それらをどのように今後、総務課長さんいらっしゃいますが、町の機関と併せて今後どのように活用していくかという点も、今後大きな施策の中で変わっていくのかなと。3点目は、なんと言っても学力向上は考えなければならないということで、そのようなことを課長から説明していただきましたので、補足説明になりませんが、そんな重点を述べていければと思っております。教育委員さん

の意見も、重点施策にかけてお話しをしていただければと思っていますので、まず保護者の代表で、小池委員さん何か意見または施策に対しての意見。

町 長 　　ちょっと待って下さい。その前に磯田課長から説明があった社会教育課のどうのというのがあったのが、社会教育課の方で課長、説明があったら補足説明を。

磯田課長 　　本日の議題の（３）で説明します。

町 長 　　そっちの方でいいんだ、わかりました。社会教育もあるそうですので。それでは、教育長が言うように小池君

教育長 　　では小池委員さん。

小池委員 　　はい、えーとですね、私保護者の代表という立場でここにいさせていただいておりますけども、小鹿野町教育行政重点施策の中で親としては、学力の向上が一番だと思っております。他の保護者からもですねやはり、そこが一番気になる場所だという話の中で、今家庭での教育の格差というんですかね、学習塾に行ける子、行けない子いますけれども、そういった行けない子をどうするかという中で、教育委員会でこの未来塾というものが発足をしました。そして、ここにもあるように中学校卒業時に英検３級４割合格を目標に掲げておりますけども、昨年度は２割合格者ということで、やはり、中学生になりますと勉強だけでなく、やはり部活動との兼ね合いもあります、未来塾が学校が休みの日ということで、部活動との兼ね合いもありますので、またその辺も教育委員会の職員の皆さんで、教育委員会の中でも検討してですね、出来る限り子供たちが参加できる体制を、今年はとっていくというふうなことで進めています。そういった中で、この勉強の場ができたことによって今年は去年の２割以上、これなかなか急に４割超えるということは難しいと思っておりますので、徐々に上げていってそして学力がついてくればいいなど、それにプラスしてPTA連合会と連携した小鹿野家庭教育宣言の推進も行っております。やはり学校だけではなく、家庭でも家庭学習の機会というのを毎日設けていかないと、なかなか学力も上がってこないかなというふうに思っておりますので、保護者としてはそこのところに力を入れてですね、PTAの方にも呼びかけていきたいなというふうに思っております。以上です。

町 長 　　はい、ありがとうございます。他に委員さんで何かご意見ありましたらお願いします。

小池委員 　　あと、今この検定については、年１回予算を組んでいただいて、無償で試験を受けられることになっておりますけど、これがあと１回位無償で受けられるとなると合格率も上がってくるのかなという気がします。

教育長 　　今のあれは、英検１回だけは町の費用で受験料無料で本人たちは受けているというような形をとらせていただいている。

町 長 去年からそうです。

教育長 そうです、はい。

町 長 全部でなくて、ひとつひとつの方がいいかな、皆さんに意見をだしてもらうのに、順番について聞くのか、それとも、確かな学力についてとか、それぞれについていった方がいいかどっちにしたほうがいいのか、これだけのものだから全体でもいいですけど、先ほど説明した複式とかいろいろ、皆さんのご意見を聞かなくてはならないこともあると思うんですけど、ただひとつひとつやっていった方がいいか、それとも皆さんからどんどん出してもらって後は書記の方でいろいろしてもらえば思うので。

教育長 もし、議長さんに了解が得られれば全体で、教育委員さから意見があると思うのでそれでもよろしいでしょうか

町 長 それでよければ、そうします。全体で今説明したことについて、では皆さんの方からご意見がありましたら、それでは、重点施策ですから行政の件についてご質問等がありましたら、お願いします。
高橋委員がありそうなので、高橋委員お願いします。

高橋委員 私も教員をお世話になってましたので、いろいろ説明がございましたが、小鹿野町はいろいろな事を最近、施策を打っているなど感じがしてます。本当に事細かに学習の指導から、教職員の配置から、何かからということで特に私が感じているのは、教職員の配置を積極的に町の方でもらっているなど感じがします。我々が現職の頃は、あまり支援員がいなかったのが苦勞した思い出があります、そういう意味ではここで上げただけでもICTの支援員の配置とか、学校図書館支援員の配置とか、あるいは給食配膳員とか、校務員の配置、学校教育相談員の配置とか数えきれない程ある訳ですけども、予算を裂いていただいて、少ない予算の中からやりくりしていただいているだなど、私が現職の時務めた事を考えながら思うと比較的恵まれているなど思います、そういう意味でやはり学力の向上というのは、そういう支援が今は欠かせないと思う。支援の充実というか、人数が多くないと学校ってなかなか指導ができないという状況があるんです、そういう意味で考えると町の方で予算をを裂いていただいて、これを継続してやっていただきたいなというようなことがございます。それから、中学校が統合した訳ですけども、いずれはまた小学校も10年20年先に行かない内にあるでしょうけども、そういうような時も、やはり支援という体制を町で取ってもらおうと学校が非常に助かります。そんな意味で、話が大きすぎてあれかもしれませんが、支援をお願いします。とりあえず今ここで話しさせていただきます。

町 長 ありがとうございます。たしかにどういう形で支援ということができるか、臨時の人が教育委員会に相当数います。本当の話を言って。30人からもっといるかもしれませんが、それだけ長く張り付けるというのは難しい面もあると思います。しかし、学校の方で最後に学力つ

ていうのが、こちらからもでましたが、そういった面で必要ということで、教育委員会からも言われているので付けているということですので、今後も続けていってもらえると思います。

他にはどうですか。今の意見でもいいし、何でもいいんですけども、こちらから指したほうがいいですか。指名したら悪いですか。朝比奈さんどうですか。

朝比奈委員 先程、小池委員さんも高橋委員さんもおっしゃっていただきましたけど、本当に今小鹿野町の子供たちがとても恵まれているなと思います。今日食べた給食もそうなんですが、あれだけの給食で285円で食べさせていただいたこともすごいことだし、さらに給食費も保育料などみんな無料化になっている、こんな町が他にそんな沢山ないと思う。大いに町を上げて宣伝してほしいと思います。よその人とちょっと話をすると、小鹿野はそんなことやってるのというように、皆野とかの知り合いの人に話をしたら、知らなかったと話していたので、是非宣伝してほしいと思います。学力に関しては保護者でも関心事ですけども、県の学力レベルでみると小鹿野はまだ下の方にありますけれども、また町で予算を付けていただきまして、未来塾に関しても沢山の予算を付けていただきまして、始まってまだ年数が経っていませんので、すぐには効果がでる訳ではないですけども、長く続けていくうちに成果が出ると私は信じています。子供たちも、先生の力が子供たちの力と言うのも、ちょっと言い過ぎかもしれないですけど、先生たちの指導力というのも、これからも指導力の向上ということも続けて取り組んでいってほしいものだと思います。是非町の方も、ご支援ご協力を引き続き、さらにその強化に伴って色々よろしくお願ひしたいと思います。

教育長 補足でよろしいでしょうか。今朝比奈委員さんが言ったように学力は低いのですが、昨年、今年28年度の伸び率は全県で7番目に入りました、伸び率というのは低いから伸び率がいいと言われればそれまでですけども、子供たちの伸び率が全県で7番というのを聞いてですね、全体像から見れば低いけども、伸び率は良かったと、この辺を今後有効にいかしていきたいなと教育長としては思っています。

町長 高橋課長すいません、子育て支援でまとめたものがあるでしょ。それを後で、教育委員さんへも渡してやってくれますか。

高橋課長 わかりました。

町長 こんなことをやっているというのを今年まとめたので、後でやってくれるかな。そうすれば、今言われたような、このような制度をやっていますというようなことが、全課を通りして教育委員会だけでなく保健課も、いろいろなところでやっているのを全部網羅されているのがありますので、まだ知らない人もいっぱいいますから、もしだったら皆さんもそういうのを見て参考にさせていただいて、PRしていただけると、PRが足りないと言われましたけど、その冊子を出来ているのを知らなかったの、まだ議員にも配っていなっかの、手作りで

まとめたものなので、そういうのを見てもらおうと参考になるかと思います。

他にいかがでしょうか。平成29年度の重点施策について、何かいろいろあったのが、複式学級っていうのが出ていたと思うんですけど、来年度が三田川小学校で複式が始まるって、複式というのは18人、16人。

教育長 16人です。17人になると大丈夫です。

町長 16人以下になると複式だという話ですから、始まると思います。教育長が前の時、何かの時に始まりそうな時があったのですが、その時は町で何とか1人補充して複式でやるのを少なくしようとしていましたけど、今回もそんなことを、教育長の方でもその件で何かあったらお願いします。

教育長 町長のご配慮がありまして、複式だけれど補充をしていただいて、主要教科についてはある程度教科担任制をしっかり位置づけて、子どもに学習において負担をかけないようにしていこうと、町長さんの計らいがあって、そんな動きで今進めているところであります。ですから、三田川小の父兄からの不安材料は、今のところ私どもには届いてきていません。どのようになるか分かりませんが、算数、国語、理科とかそれらの主要教科については、子供たちにはちゃんとした、確立した町の支援をいただいて、1人付けていただくという方向で考えて、今進めているところです。そんなことを町長の計らいでやっていただいている所であります。

町長 出来ることはやります。

教育長 はい。ありがとうございます。

町長 よろしく申し上げます。他にはどうでしょうか。まだ、いっぱいありますが、ひとつひとつやっていくと時間がないので、もしありましたら後でもいいので、お願いしたいと思います。何時まで。

高橋課長 3時くらいまでですかね。

町長 何かある人がありましたら、後で結構ですのでお願いします。とりあえず、(1)は以上にして、(2)今後の児童生徒数から見た学級編成についてを議題にしたいと思います。事務局からの説明をお願いします。

磯田課長 はい、それでは、今後の児童生徒数から見た学級編成ということで、お配りしております資料につきましても、小鹿野町の今後の小学校の状況という資料があると思いますが、それをご覧いただきたいと思います。まず1番目に小鹿野町の小学校児童数及び学級数というのがございます。小鹿野小学校が児童数の合計が364人、両神小学校100名、長若小学校64人、三田川小学校67人、町全体で小学校児童

数につきましては595人というふうな事になっております。これが29年度です。表の1になります。それから、2番目に各学校における今後の入学予定児童数、表2というのがございます。こちら平成28年度は無視していただきまして、平成29年度と平成35年度の所をご覧いただきたいと思っております。小鹿野小学校、平成29年度54人今年度ですが、平成35年度になりますと23人になります。両神小学校が今年度17人が、平成35年度になりますと5人、長若小学校10人が7人、三田川小学校7人が5人、町全体で入学予定者数が今年度88人だったのが、平成35年度に40人と半数以下まで下がってしまうというような事が予想されます。それから、3番目に今後予想される複式指導というような事で、各学校ごとに何年度に、どの学年で複式学級が生じるかということ整理させてもらった資料です。まず、三田川小学校なんですけど、先ほど町長さんから話がありましたとおり、平成30年から複式が開始されるような形になります。組み方につきましては、2年生と3年生が一つのクラスというようなことで、7+8で15で、16人が複式の要件ということでもありますので、当然複式と言う事になります。それから、31年が同じく2年3年、32年になりますと、2年生と3年生それから4年生と5年生に複式が生じます。33年も同様です、34年、35年、36年も同様ですね。ただし、36年につきましては、1年生で入ってくる児童を4人以上と仮定したものであります。これはなぜかと申しますと、複式の要件が1年生を含む場合には、8人以下が複式になると、36年にも3人ということになりますと、1年生と2年生を足して8人ということになりますので、1年生と2年生で複式を組まなくてはいけないと、いうふうな事になります。それから、複式を組む場合には事情によっては、例えば3年生と5年生で複式を組むという場合もあるらしいです。4年生に生徒数がないとかですね、そういった特別な事情があったりするんですけど、基本低学年から組むような形に学校基準だとなっているようです。ですので、例えば31年度三田川を見ていただきますと、3年と4年でも複式を組めるんですけど、足すと15人ですから、けども、低学年から組むようにということなので、2年生と3年生というふうな組み方になっております。そんな事情もあるということをご了解をいただきたいと思っております。次に1枚めくっていただきたいと思っております。長若小学校になります、長若小学校につきましては、平成33年から2年生3年生で生じる事になります。34年も2年生3年生、35年36年は、4年生と5年生で複式を組むというふうなことになってきます。それから、両神小学校につきましては、平成36年度に2年生と3年生で、複式学級が始まるというようなことで、学校によって、児童数が違いますので、複式の開始時期も異なるというふうなことがお解りいただけるかと思っております。いずれにいたしましても、来年度三田川小学校で複式が生じるというようなことで、先ほどもご説明させていただきましたけども、今年度から専任の学習支援推進員の方を配置いたしまして、三田川小学校の教職員の方々、校長先生を含めて複式学級への研修や検討を進めていただいております。すでに複式が行われている近隣ですと、荒川西小学校等にも三田川小の先生方を含めて視察にも伺っております。今週明日になるかと思われませんが、今度は三沢小学校、こちら複式をやっ

るといふふうなことで、そちらにやはり同じように研修に行って、どんな活動をされているのか、勉強してくるふうなことになっております。先ほど教育長の方からも話がありましたけども、小鹿野町につきましては、小鹿野町の地域性を生かした小人数学級、小規模校の良さを最大限に生かした学校づくりというのを、これからも進めて行きたいというふうに考えておりますのでご理解をいただきたいと思っております。以上で、児童生徒数から見た学級編成についての説明は終了させていただきます。よろしく願いいたします。

町長 それでは、何か補足説明が教育長からありましたらお願いします、

教育長 一つだけ、1ページの課長が説明した、三田川小のところを見ていただくと解るように、どうしても避けられない学年が2年生、3年生なんです。この2年生3年生が避けられない大きな理由は簡単なんです。1年と2年は教科が共通なんです。2年と3年では教科が違ってきているんです。社会科は3年以上です、生活科は2年生までしかない、そうすると2年生と3年生で教科が違うために、残念ながら県の指導で低学年から組めというようなことで、残念ながら2年3年の組み方というのは難題を示している。3年4年5年6年というのはそれ程の差はないんですが、1・2年と3・4年生の2年と3年の壁が大きい教科がいくつもあるということで、補足させていただきます。以上です。

町長 はい、2年と3年で何かきついのがあるそうです。
 何かこの児童数について、ご意見等がございましたらお願いしたいと思っております。

高橋委員 いいですか、関連して。

町長 はい、どうぞ。

高橋委員 私の小学校教員の時経験した、今とはちょっと違うかも知れませんが、ちょっと概要だけ話させていただきますけども、今教育長が言ったように2年、3年というのは内容的に違うので、1人で教える場合は「わたり」って言うんですね。こっちを教えて、2年生3年生を置いておいて、渡ってこれやっておいてと課題を出して、こちらでまた課題を出してという、やり方をするのが通常なんですけども、先程から話があったように、小鹿野町で支援員さんを取っていただければ、これ、形じょうは複式学級ですけども、張り付けられる支援員さんですね、3年生なら3年生、2年生なら2年生と張り付けられれば、そういうもので先程から言っているように、支援員を沢山採っていただくと、そのようなものは、形じょうは複式でやらくてはいけませんけど、実質上単独でできるというような形が作れると思うんですね。ですから、そんな意味でもそれが必要なと思われまして、それから、もう事前に三田川小学校の先生方は、複式の方の研究に行っているようですから、もちろん、そういうものも使わなくてはいけないとか、そういうものを両方使っていけば小人数の良さが出てく

るから、そんなに心配することではないかとは思いますが。以上です。

町 長 はい、教えることになるので当然免許を持ってなくてはいけない。小学校なら小学校の免許を、持っていないといけないから、きついなかなという感じがするから、それをどういうふうにするのかな、そういう人がいない場合には。

高橋委員 総合的に学校名で配置を考えていけば、例えば、国語、算数とかの時間は正規の職員をくっつけて、支援員に違う仕事をやらせるというような形をとれば、出来ないはずはない。

町 長 複式っていうのは複式でしょうがないので、やるしかない。ただ、便利上今言うようにやっていくということだけど、普通で考えると出来そうだね、統合してもと考えられるので、そういうところを良く研究してやってもらうしかない。

教育長 町長さんが言うように免許所有者を採用していきたい。

町 長 それならいいけど、そういう人がいるかどうかだね。

教育長 なかなか採用が厳しくて。

町 長 そういう免許を持っている人がいれば当然いいけど、そうすれば異動でもなんでもできる。

教育長 飯能吾野は「わたり」をやっているんです。いまだに「わたり」と言って、それをメインにしているんですけど、でも飯能は残念ながら、統合するのが決まったようなんですけども。

町 長 普通は高橋先生、そういう部分では一緒にやっていたんだよね。昔、私は複式の担当ではなかったが、隣の人が複式を持っていてやっていたことがある、旧三田川第3小学校で。

複式のいいところもある。自分でやらなくては勉強にならないので、複式が悪いとは思わない。子供の気持ちひとつで自分でやっていくようになるから、私はそう思っている。私は実際に隣のクラスでやっているのを見ているから。

高橋委員 ただ問題は社会性なので、その辺は何とかなる。

町 長 （「おがの子育てガイド」を配付）
こんなのを作ったので、参考にしてください。
皆さんもPRしてください。大体全部入って、足りないものもあるかもしれないが、大体は入れたつもりということです。

教育長 朝比奈委員さんどうですか。今町長さんから資料いただいたので。

朝比奈委員 いいですね。こんないいものがあるのに、もっともっと知られるは

ずなのに。町を上げてアピールできる。

町 長 やっているのだけど、なかなかそうもいかない。
それから、さっきの説明で荒川西がやっているの、それと三沢、郡内ではその2つ。まだあるの。

磯田課長 久那小学校がやっています。

町 長 その3校くらい。荒川西っていうのはどこにあるんだっけ。

高橋課長 両神から抜けた所です。

磯田課長 実際西小を見られてきた先生がおっしゃってましたけど、複式でもちゃんと児童生徒はしっかりした態度で、授業に取り組んだり、活動もきびきびと、発言もはきはきと、非常にいいクラスだったとの印象だったと伺っております。

町 長 複式というのは先程説明があったとおり、良い面もあり、デメリットばかりではない。

磯田課長 指導体制につきましても、先程から町長さんがおっしゃったとおり2人体制、担任の他に支援員さん付いてというふうな形で、取り組まれています。

町 長 2人体制でやっていただくような形で、教育長に教員免許を持っている人をなるべく探してもらうしか、そういう所をやってもらう人は。そうでない支援員さんは、やっても大丈夫な支援員さんもいる訳だから。

児童数、学級数この件についてご意見・質問等ありましたら、お願いしたいと思います。(2)については以上にしておきたいと思えます。(3)旧両神中学校施設活用計画案についてを議題としたいと思えます。事務局より説明をお願いいたします。

黒沢課長 はい。私の方から説明をさせていただきます。それでは、旧両神中学校総合活用計画(案)という資料をご覧くださいと思います。朗読しながら、説明させていただきたいと思えます。まず初めに、旧両神中学校については、平成27年3月に閉校となり2年が経過している。この間、備品の移動や校舎内の清掃等を行い、今後の校舎有効活用ができるよう維持管理を行ってきた。中学校は両神地域のコミュニティー活動の拠点として、地域住民の方々より親しまれてきた経緯があり、今後は中学校統合により閉校となった、旧両神中学校校舎の有効活用を検討する必要があると考える。また、小鹿野町で保管する文化財については、旧倉尾小学校と総合センターを中心に約7万点が点在し、今後この貴重な文化財についても、将来、地域の未来を担う子供たちに受け継いでいく必要がある。今後、小鹿野町公共施設等総合管理計画及び教育財産管理計画に基づき旧両神中学校校舎の有効活用ができるよう計画するものである。1. 活用の目的、地域・世代間を超

えた交流の中心となる施設づくりの推進 ①町で所有する文化財の展示及び収蔵、町では、地質、歴史、美術工芸、民族を中心とした文化財が約7万点点在する。その多くが旧倉尾小学校や小鹿野総合センターに保存されていることから、貴重な文化財の保存と展示を行い、町内外に対しても小鹿野町の歴史を発信できる施設整備を目的とする。また、文化財の保存施設として、その地域の人々が築きあげた歴史的風土、地域における生き方やまちづくりの方法、また未来に向けての創造をよりよく促進させる拠点となるよう整備していく必要があると考える。②人々が行き交う地域コミュニティ施設づくりの推進、山間部で生活をしてきた高齢者の方々の知恵や伝統文化について、次世代を担う子供たちに継承するための体験事業を行う。また、地域住民の方々にとって憩いの場や情報交換ができるような施設を目的とする。③生きがいあふれる作品の展示と町の情報発信施設、町内在住の方々の写真や書道、絵画、手芸等の特別展示を、時期に見合った内容で公開し、併せて町観光担当課と共同しながら、町の情報発信ができる施設を目指す。④小鹿野町総合教育複合施設の構築、校舎及びふれあい工房については、文化財展示、総合学習室として文化・歴史的教育の向上を目指す施設として活用し、体育館については両神山、二子山登山のアウトドアフィールドの拠点としてボルダリング施設を整備する。子どもからお年寄りまでの生涯学習、健康づくりを推進し、教育体験学習を通して総合的な教育施設の充実を図る。続いて2ページ、既存の文化財がどんな所に置いてあるのかとかが3番に出ております。旧倉尾小学校の2・3階、それからみどりの村展示室、それから倉尾ふるさと館、それから文化センター倉庫、これは旧消防署の後の倉庫でございます、それから総合センターという形になっております。これをどのように配置するかということですが、資料をめくっていただきまして、色刷りのA3の資料を見ていただければと思います。旧両神中学校の計画配置図になっております。両神中学校全体の配置図となっております。既に今年度、体育館の方にボルダリング施設を造らさせていただく形になっておりますが、その他に普通教室棟が真ん中程にございます。そこに文化財の収蔵・展示フロア、憩いと情報のフロアということで、生涯学習に使えるような施設を設置するという形になっております。それから、離れと言いますか、ふれあい工房が校舎の左手の方にごさいます、そこに、これは2階建ての建物という形で、常設展示室、総合学習室という形で設置するという形になっております。それから、裏手の方にフレンドリー相談室というのがありまして、これは平屋の建物ですが、これにつきましては、紙漉きの体験などをしてもらおうような施設にしていこうというふうな計画になっております。それから、一番後ろに剣道場がございますが、これはボルダリングをやる方の更衣室とか、いろいろ施設を利用する方の更衣室・休憩室という形になっております。もう一枚めくっていただきまして、仮称小鹿野教育総合センター展開図案という形になっております。これは中学校の本体の部分の普通教室とふれあい工房を表した展開図でございます。上の方から3階、2階、1階という形で展開した図でございます。3階につきましては主に文化財の収蔵ということで、旧倉尾小学校、小鹿野総合センター、旧分署倉庫、その他からの文化財を収蔵するという形でございます。2階の約半分の所につきまして

も同じく文化財についての収蔵を予定しております。それから、こちらの方がメインになるんですが、オレンジ色で囲ってあるところが展示室という形で、残された2階の2教室につきましても、歌舞伎、文学、歴史・民族、地質・自然と言った文化財を常設するすると言った形にさせていただいてございます。それから、校舎の左手の方でございます、ふれあい工房つきまして、そちらの方を常設展示会場という形で考古学の常設展示を行うよう工夫をし、飽きがこないようにしたいというようなことになっております。それから1階の部分につきましても、主に事務室、談話室、情報発信室、体験学習室、倉庫などのメイン教室につきましても、そういうものに使うということで、ふれあい工房につきましても、町民ギャラリーとして使ったり、総合学習室という形で活用するというふうな計画になっております。それでは戻っていただきまして、計画のフローチャートと言いますか、設計図がでございます。3枚程戻っていただきますと、これにつきましても、年度ごとに渡っている訳でございますが、29、30、31、32、33、34と言う形で、年度ごとに分かれているんですが、まず29年度にボルダリング施設を造るということで、これは対応中でございます。両神中学校の本体の設計工事につきましても、31年度に設計、32年度に改修工事を行うという形で予定しています。それに伴いまして、両神小学校の調理室を30年に改造いたしまして、それに旧倉尾小学校にある、箱に入っている800ケース程の合角ダムの遺跡がございまして、これは重量もあるということなので、それを先に収蔵するという形をとらせていただきたいと思います。その後、中学校の本体、ふれあい工房の改修が進みました時点で、総合センター、その他の文化財について順次、移動し展示をするという形で、平成34年に実際にオープンをできればなというふうな計画になっております。旧倉尾小学校につきましても、平成33年度を目途に解体を出来ればというふうに考えております。それから、総合センターにつきましても、平成34年以降について解体を出来ればというふうに考えております。以上で、雑ぱくな説明でございましたが、配置図等を中心にいたしまして説明をさせていただきました。以上です。

町 長 (3) の説明が終わりました。何か教育長の方で補足説明がありましたら、お願いします。

教育長 はい、総合センター、旧倉尾小等、それぞれ関わる訳なんですが、閉校した旧両神中学校を文化財の資料を常設展示で、また、総合的に今ある体育館脇の総合センターの、機能を少しでも活用出来ればと、ご存じのように、体育館隣の総合センターは耐震等の問題があって、今後あれを改修するとなった時に、どう見ても2階等の常設展示が厳しいだろうということから予測して、今文化財は県の指定どおり、ある程度すばらしい文化財等もあるし、歌舞伎その他文学等もすばらしいものがあるものですから、町の発信に活用出来ればと思いついて、旧両神中学校は集約した移転先であり、教育開発として使わせていただければということから、今日初めて町長さんの方に、こんな形で教育委員会内部の意見を述べさせていただくと、こういうこととなります。以上です。

町 長 ただいま説明がありました、ちょっと事務局にお伺いしたいのですが、耐震補強って言うのですが、耐震補強はいくつからやるんですか。ここに0.62ってあるのだけど。

磯田課長 0.65が基準です。

町 長 中学校は0.75と言われたけど、0.62だと相当良いと思うんですけど、役場は0.3いくつしかない、これを初めて見させていただいたが、これでも総合センターだめなんだなと感じた。0.03の違いがどうかは知らないが、

黒沢課長 目標のIs値は0.75です。

町 長 0.75は学校とかではないか。

高橋課長 防災拠点だとか、そういうような物が0.75以上が望ましと。

町 長 この時はこう言って、この時はこうではだめだ。これについてはいいです。何か皆さんの方からありましたら、お願いします。旧両神中学校をこういうふうに使いたいということだそうですから。皆さんのほうから、ご質問、ご意見等ありましたら、お願いしたいと思います。全部まとめるのもいいのかもしれないが、場所的なものも良く考慮して、行き易いのは今の総合センターの方が行き易い。これから、役場がどうなるか分からないので、どうなるか分からないが、そこまで社会教育課の方で検討してやったのなら、これでいいですけど。旧両神中学校の跡地を使うことについては、教育委員会の方から今の案でやりたいということであります。皆さんから、ご質問、ご意見がなければ次に入らせていただいて、今後教育委員会で検討していけば良いと思いますから、そういうことで終わりにしたいと思いますけど。ご意見等はないでしょうか。

小池委員 今いろんな、貴重なものが点在をされているので、やはりそれを一同に会して展示、また、子供たちの教育の一環として、展示物を見られるという所が、広い所でないと展示がきれいなということで、空き校舎の利用という意味で、旧両神中学校ということになったと思うんですね。

町 長 私は知りませんが。

小池委員 やはり総合センターですと広さ的にちょっと狭いのかなと、いうことがありますので。

町 長 広さ的にと言うことでございますけど。収蔵庫としては総合センターは全然機能ないですが、展示場としてですね。もしやるとするとしてもね。これを見させていただいても半分の広さですよ。

教育長 (資料に) 延床面積が載っております。あとは、建築年月日等で寿命

的にはということで、その辺も含めて残りの耐用年数の利用というの
も考えてみた訳なんです。町長さんが言われるように交通の利便性
の点では、マイナスという点がありまして、今件との絡みと、もう一
つは常設展示が出来るということと、総合センターを改修したとして、
面積上厳しいのかなということも含みまして、折角閉校されている学
校施設を有効活用できればということ、というように考えた結果であ
ります。常設展示が出来ることによって、多少なり不便な場所ですが、
小鹿野町の素晴らしい文化財の紹介と、機運等で何とかここの施設の
有効活用出来ればなというようなことで、現在ある旧長若中ですと部
屋の数がちょっと少ない、ということもあったりするものですから、
旧三田川中はちょっと断念せざるを得ない事情があって、最終的に旧
両神中学校を、今後長い目で見ると文化財の資料等の鑑定、その他文
化展というよりも、収蔵常設という点と、その他子供たちが歴史文化
を学べる場所としてということを含めて、総括的に考えてみました、
ということで教育委員会でご意見を頂いて、旧両神中学校で考えた訳
であります。大変にメリット、デメリット両方持っておりますので、
大変難しい状況があるのは事実であります。

町 長 事務局にちょっと聞きたいのですが、改修費が総合センター1億2
千3百万、片方が7千7百万、どんな改修を概算、例えばエレベ
ーターを付けるとか、見積っての改修費ですか。

黒沢課長 まず、総合センターの方ですが耐震補強、アスベストの改修、それ
からエレベーターを付けるということと、それからトイレの改修、内外
装の改修、浄化槽、それから展示ケース等の取換えですが、この中で
お金が掛っているのが、耐震改修という形で3千2百32万、それか
らエレベーターの方で2千5百万程で見積りの方を出ささせていただ
いております。中学校の方につきましては、まず設計の方で、7百万ほ
ど、あとは、トイレの改修、空調、それから外装、内装の改修という
形で、一番掛っているのが、内装の改修で2千5百万、それからバリ
アフリー改修という形で、これが総合センターのエレベーターと違っ
て、リフトも付けて2階に上がるという形のもので4百万という形で、
あとは展示台等の購入に1千万という形で、合計7千万という形で計
上させていただいております。

町 長 中学校は改修するとなると、エレベーターは付けなくてはいけなく
なる。リフトがあるが、人は乗れないので大したものではない。良く
検討をしてください。

磯田課長 先程町長から質問のあったIs値の関係なんです。今調べましたら
構造耐震資料ということで、公共施設の場合には0.7、さらに総務
課長の方からお話のあった、避難所とかそういったもので活用され
る場合には0.75ということでございます。

町 長 はい、分かりました。他にはいかがですか。

高橋委員 同じようなことなのですが、総合的なものはお客さんが求めている

のは、一か所ですべてものが見られるということなんですよ。そういう面から言うと、利便性という問題があるんですけど、旧両神中あたりを整備して、宣伝していった方がいいかなと感じました。多少問題が、どちらもあるんでしょうけども、そういうふうに感じました。

町 長 ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

朝比奈委員 ボルダリングが2020年のオリンピックの種目になっていますけど、これから利用人口が増えてくることも見込まれると思いますし、ボルダリングだけよりは、他に何か複合施設が、体育館は町の子供たちのための教育施設として改修するのですけども、町民も当然使いますし、他の所から来られた方も両神登山や何かで小鹿野に入ってこられる方もいますので、それに伴って総合的に施設があった方が、他の所から来た方にとっては、大変使い易くなっていくというふうにも、文化財の展示もその一環として、今では宝の持ち腐れみたいに、箱の中に入れてままで旧倉尾小学校に置いてあるとかというのでも展示したり、というのでも是正できたというのでも、他の所から来られた方も当然、体を鍛えながらいろいろな体験や、展示も見れるというのを、まとまった所で出来ると私的には魅力あると思います。

町 長 ありがとうございます。どこかに作るということで、こういった案だと思いますけど、ボルダリングは結構危険が伴うものだと思うのですが。

朝比奈委員 それはテレビで見たことがあるんですけど、子供は子供なりのボルダリングで、大人は大人で、さらに上級は上級で壁の設置の仕方が違うみたいです。

町 長 そんなに予算を確保した訳ではないので、そんなには出来ないかもしれない。どんな程度を造る予定ですか。

黒沢課長 今予定しているのは、高さが4 mから5 mくらい、幅が10 mくらいの基本的なものです。

町 長 どっちかというとな大人用なの、子供用なの。

黒沢課長 それはホールドの付け方でいろいろ配置ができます。

町 長 予算化しているので、どうゆうか形でできますから。他にはいかがでしょうか。とりあえず無いようですので、次に入らせていただきたいと思います。（4）の認定子ども園視察結果についてを議題したいと思います。説明をお願いします。

黒田主幹 それでは、簡単に視察の概要を私の方で説明したあとに教育委員さんに行って頂いておりますので、感想の方を述べていただければと思いますが、先月5月18日に群馬県邑楽郡明和町、こちらにある子ど

も園の方に教育委員さん4名、教育長、ドライバー、ひまわり保育園の園長、保育所の所長2名、事務局の合計12名で視察のほうへ行かせていただきました。明和町というのは、埼玉県羽生市の上の方、利根川を渡ってすぐの所ですが、隣が館林市ということで、そちらの方のベッドタウンに近いような立地条件ということで、人口的には小鹿野とほとんど変わらず約1万2千にくらいを切るところなんですけども、子供も数は小鹿野町より多くて理由を聞いたところ、良く分からないとの事でしたが、近くに大きな工場とか、館林市があるということで、そういうふうな現状になっているのではないかと感じておりました。明和町のこども園につきましては、平成18年に開所ということで、当初こちらを作った時は地域からの要望ではなく、町の施策として当時あった幼稚園と保育所を合体しまして、後付けのモデル事業の一環として、このこども園を開始したということで話をお聞きしております。現在、平成29年度のこちらを利用している子供の数ですが319人ということと、職員の数に関しては非常勤の方等を含めて、総数59名の職員で運営しているということです。なお、明和町にある小学校が2校、中学校が1校というふうなことでお聞きしました。簡単ですが、明和町の概要説明は以上とさせていただきます。

町長 はい、ご苦労様でした。こども園の視察について、説明がございました。何かご質問、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

齊藤委員長 いいですか。

町長 はいどうぞ。

齊藤委員長 一緒に見学にも行ってきたのですが、感想がてら意見を言ってみたいと思います。小鹿野町の出生の人数が非常に減っていますので、先程小学校の学級編成の問題もありまして、一番初めに問題になってくるのが、幼稚園と保育所の両立の問題が、町は出てくるのかなと思います。それで、将来的にはやはりこども園にした方がいいのではないかと、一応見学して思いました。それと、子供さんを持っている利用する立場とすれば、幼稚園と保育所があった方が使い勝手がいいので、あった方がいいかなと、ただし、問題点も非常にありまして現状の小鹿野町の考え方ですと、なかなか対応できるのが大変だと思いますので、人状を絡めていろんな事を対策していかないと、運営はなかなか難しいんじゃないかと感じました。以上です。

町長 他にはいいですか。他にどなたかこども園について、何かございましたらお願いします。

小池委員 視察に行かせていただいて、まずびっくりしたのがクラスが17クラスあって、なんでここだけ子供がこんなに多いんだっていうふうな感想でした。先生方の話を聞いてみますと、やはり幼稚園と保育所というのは基本的なものが違うので、やはりそこを一緒にするというのは、先生方の意識づけも大変でしたし、また、これだけ人数が多いとシフトを組むのも大変だというふうな話をしていました。ただ小鹿野

の場合はそれほど多くない先生方だと思いますので、その辺の意識の共有が出来れば、ここほどは大変でないのかなという気はしました。保護者サイドで見ますとやはり、今月、来月からちょっと延長保育をしてほしいといった場合は、保育所タイプの方に切り替えられたり、また、仕事を一旦休んでいるんで、幼稚園タイプの方に切り替えられたりというふうな、メリットがあるとも言っていましたので、その辺の所は保護者としたら、ありがたいのかなという思いがしました。以上です

町 長 はい。他にどうでしょうか。

朝比奈委員 すいません。

町 長 どうぞ。

朝比奈委員 見させていただきまして、とても大規模な幼稚園だなど、町の人口が小鹿野と大して変わらないのに、何でここばかり子供がこんなに集まっているのかなというのが直感ですね。これがモデルケースとして、幼稚園と保育所と一緒にこども園になったということなんですけど、いろいろとご苦労なさったという話も聞かせていただきました。先程小池委員さんもおっしゃるように、色々大変な部分があったなど、今現在も色々大変かもしれないですけど、小鹿野町の場合は人数がかなり減ってきていますので、ゆくゆくはこども園で落ち着くかとは思いますが、ただ色々保護者の立場で考えれば、今幼稚園に通わせている保護者の場合は、やはり幼稚園教育を受けさせたいから、通わせている部分が結構あるんじゃないかなと思われまして、保育所の場合は、ただ施設として子供を預かるということで、教育とは全く関係性がないですね。明和町のこども園は両方が合体しているような形になっているので、両方の元々の園長先生の話の聞くと、幼稚園側の方の教育レベルを保育所にある程度合わせている部分があって、教育レベルが下がっているんじゃないかなって、というような意味合いにもとれました。そういう部分では、小鹿野がもしこども園を考える場合は、そこはある程度保育所に合わせるのではなく、どちらかと言うと幼稚園の方のウェイトを大きく置いた方が、保護者にしてみれば大変ありがたいのではないかな。教育を受けられるという部分がいいんじゃないかなという気がしました。すいません、以上です。

町 長 ありがとうございます。保育園の方が、結果的に長時間保育していただけるのはどうでしょうか。その辺はどうでしょうか。

朝比奈委員 結局保育園は長くみてもらえる。

町 長 長時間みてもらえるよね。

朝比奈委員 そこはメリットなんですよね。これが今度、こども園だと長くもみていただいて、また教育も受けさせられるということが、今保育所に子供を通わせている保護者の立場なら、こども園の方がいいんじゃない

いかなと思われる。

町 長 黒田君が行って来たということだけど、定員が200名とか、150名とかあるが、どちらが多かったですか、保育所の方とか幼稚園の方とか。

黒田主幹 みんな一緒なんです。

町 長 一緒だけども、なぜ定員ってあるけど、短時間保育が200名で、長時間保育が150名ってあるから。

黒田主幹 短時間がいわゆる幼稚園です。

町 長 幼稚園だよ。どっちの方が多かった。短時間ではなくみんな長時間。

黒田主幹 帰る方が多いです。普通の幼稚園の方です。

町 長 なるほど。ということは、2人で働いている人が少ないということかな。

黒田主幹 そうですね。家に誰か居るという事ですね。親でないにしても、おばあさんとか、おじいさんが居るという事ですね。

小池委員 短時間児でも月9,500円なですよ。

町 長 結果的にそれは、幼稚園の方だからそんなもんだよね。小鹿野だと3,000くらいだよ。小鹿野の方が安いよね。

朝比奈委員 3,000円です。

町 長 安いはず。だから、結果的に親ならそれの方がいいかな。

黒田主幹 一番の問題は、選択肢がないということです。明和町はこの施設しかないそうです。幼稚園と保育所があるのではなく、ここしかないんだそうです。

町 長 短時間か長時間は自分で決めてどっちでもいいの。

朝比奈委員 長時間だと9,500円ではなく、金額が変わってくる。

小池委員 所得によって変わるそうです。

高橋課長 制度は保育所と幼稚園があります。ここで言う幼稚園児、短時間児童と長時間児童も、同じ条件を満たすと選択できます。要するに保育が必要だということで保育所に入るには、両方働いている方でないと認定こども園でも保育型の方に預けられ、同じ認定こども園なんですけど要件は同じなんです。

町 長 保育所と幼稚園がか、それでは、両方が働いていないと長時間の方はだめということか。

高橋課長 そうです。

町 長 そういうことですね、今の説明だと。それではちょっと無理かな。

磯田課長 そうではないです。

高橋課長 認定こども園の制度上はそういう話です。

磯田課長 認定こども園は、幼稚園型と保育所型の2種類あるんですね、それで若干受け入れの仕方も変わるんですけど、ここの、この視察させていただいた所は、保育にかける要件が欠けたとしても、そのまま居られるという所がメリットなんですね。ただ、先程黒田君が言ったように、その町自体に認定こども園しかないので、純然たる保育所とか幼稚園に入りたい場合は町外の施設に出さなければいけない、ということになってしまうんですね、現にそういう方もいらっしゃるということらしいですけど、そういう意味で選択肢が限られてしまうということが、デメリットだと思います。

齊藤委員長 単純に言っちゃいますと、これはみんな幼稚園教育をしています。幼稚園教育をしていて、それで保育所として残りたい人は、小鹿野町とかは基準があるんだけど、ここは基準がなくみんな残れる。だから、預ける立場とすると幼稚園と保育所が一緒になったような感じになって、先生が大変です。

町 長 先生は大変かもしれないけど、やはり父兄の事を考えなくては一番に。

高橋委員 保育所の事を考えるとこのこども園の方がメリットがある。今委員長が言ったように運営だとか人事面とか大変だけど、保護者側から見るとこちらの方がいいと思う。

町 長 結果的に保護者って確かに朝比奈さんが言うように、幼稚園教育を受けさせたい方がいるかもしれないが、長時間預かってもらいたいというのが一番だと思う。仕事がしたいということだと思う。私はそう思っている。

朝比奈委員 そうですよ。保育所に預けるだけだと教育は行われていないから、それよりは、こども園ならある程度幼稚園教育もしてくれる、確かに延長する子は保育園扱いになるんですけど、少なくとも2時まで、普通の幼稚園教育とは言えないですけども、幼稚園教育よりは少しレベルが下がっているとは思いますが、でも一部幼稚園教育の形をとっている訳ですよ、少なくともそこはメリットがある。

齊藤委員長 英語教育をやってます、専門で2人やっているの、町としては学

力向上としてやっています。

町 長 いろいろあるんでしょうけども、先程幼稚園の時間で帰る人が多いと言ったでしょ。じゃあ、どういう事かなと感じます。

朝比奈委員 それは保育料の問題もありますから。

町 長 保育料は先程9, 500円ということだった。

黒田主幹 幼稚園の場合は、プラス延長料金が取られます。

町 長 保育所はこれでいいの。

高橋課長 保育所はまた国の算定ですから。

町 長 9, 500円というのは何なの。

高橋課長 幼稚園です。

朝比奈委員 2時までが9, 500円です。

町 長 2時までが9, 500円で、それ以降は延長保育で保育料を払うのですね。保育所の150名というのは、保育料は収入によって決めるけどそれと同じに決めるということ。

磯田課長 そうです。長時間児の場合には

町 長 長時間ではなく、保育料。

磯田課長 はい、算定基準があつて所得によって決めます。

町 長 それで決めるということ。そういうことは、9, 500円より安い人も出てくる訳だな。

磯田課長 そうですね。0っていう人も。

朝比奈委員 収入が低ければ。

教育長 そういうことですね。

朝比奈委員 45, 000円までなってます。

町 長 高い人はね。そうでない人は、ほとんどなくても入れるの。

教育長 動機はあくまで住民からの要望ではなく、国の施策で、一つの見本というか、モデル事業として補助金等を出すからということで、ですから町で検討したとかアンケートとか、そういったものはないそうで

す。

町 長 そうすると、これも150人の保育所の方は厚生労働省でやって、幼稚園の方は文科省なんですか。

高橋課長 認定こども園の場合は内閣府です。

町 長 内閣府か。

高橋課長 その設置要綱は内閣府です。

黒田主幹 いろいろな書類は両方に出します。3箇所には報告書は上げなくてはと言っていました。

教育長 職員が、正職が15名で約60名の職員がいますけど、正職が15名であとはみんな臨時の方なので、町の経営上厳しい面があるなど。

町 長 小鹿野でも17クラスはちょっときついな。15名でというのは。

教育長 人数が全然違うものですから。給食はどこで作っているって言っていましたか。

黒田主幹 給食センターです。

教育長 給食センターって言っていました。

黒田主幹 給食センターで作ったのを持ってきて、アレルギー食だけは自分の所で作っている。

町 長 職員が59人っていうのは、そんなに多くはない。

教育長 ぎりぎりでやっているような事を言っていました。厳しいと言っていました。

高橋課長 うちの方も結構いるでしょう。

磯田課長 公立保育所が100人ちょっとくらい。

高橋課長 低年齢児だと、0歳で3人に1人とか。

教育長 そういうことか。

高橋課長 そういう基準があります。

磯田課長 職員は30人くらいです。

高橋課長 幼稚園の場合は20人くらいです。

教育長 町長さんのご存じの神川町の方では、認定の手続きは終わって、施設だけ造るということです。

町長 我々町長は、長時間保育してもらえればというのが、一番の狙いです。

教育長 そうですよ。

町長 確かに学習的、学力的というのはありますけど、我々が考えるとそうなる。長時間保育をして、働ける人に何とか働いてもらいたいというのがあるからね。まあ、だから考える町もあるだろうけど、我々の所は民間の保育所もあるから、こういうふうにする場合民間の方を圧迫してもいけないので難しい面もある。というのは話をしています。出生数が40人くらいで、幼稚園だ保育所だとやったのでは、しょうがないかなという感じがする。だから、そういう点は移行するにしても、何をするのにしても民間と話し合わないといけないかな。明和町は今まで幼稚園と保育所がどうあったか知りませんが、今はこれだけってことでしょ。民間がなければこれが出来るが。他には委員さんのほうからございましたらお願いしたいと思えますけど、委員長の方で総括的にもし、最初から1からありましたらお願いします。

齊藤委員長 平成29年度が教育重点施策とかいろいろ始めましたので、是非教育委員会だけでは出来ないことが多いので、町長さん初め町当局でも是非協力いただいて、小鹿野町の教育ができますように、よろしくお願いします。それで、28年度まで大分色々な事を教育委員会と町としまして、統合中学を実施したり、あるいはグランドデザインで25億の資金を使わせていただきました。本当にありがとうございます。これからも、教育委員会だけではなかなか施策が出来ませんので、町と一緒に小鹿野町の教育が良くなるよう実施していきたいと思えますので、今後も是非ご指導をお願いしたいと思えます。以上です。

町長 はい、ありがとうございました。他の委員さんの方から何かありましたら、お願いしたいと思います。それでは、その他は何か。

黒田主幹 1つ報告をお願いします。先週中学校の方で学総体という体育の大会がありまして、団体ですと柔道の男子が優勝、バレーボール女子ですけどもこれも優勝、ということで県大会出場になります。個人戦ですと、すべて把握できてないですけど、剣道で女子が一人優勝しました。そして、柔道で優勝か分かりませんが、女子1名、男子4名が県大会へ行くということで、優秀な結果を納めたということで報告させていただきます。以上です。

町長 はい、ありがとうございました。いままでと比べるとどうですか。団体が2つも優勝するということはどうですか。

磯田課長 前もありました。

黒田主幹 女子のソフトボールも決勝で負けたということで。

町 長 委員さんの方から、他には何かないでしょうか。ないそうですので、大変皆様方のご協力をいただきまして、予定しました議題の方は以上で終了させていただきたいと思います。これで座長の座を降ろさせていただきます。ありがとうございました。

 以上で教育総合会議を終了

閉会 午後 3 時 21 分